**広河原**

菊池渓谷の2つの散策路のうち長い方の道は、ひらけた場所であり、川が浅くその流れが比較的穏やかな「広河原」でビジターセンターに引き返す。道はカエルや小さなイモリ、水性昆虫の生息地となる小さな淵の間を蛇行しながら進む。また、碁盤の目状に区切られた岩場が目立つ。この岩石は、阿蘇山の噴火によって放出された火山灰が高温で溶融してできた27万年前のもの。岩盤が冷えて割れたときにできた割れ目は、水が流れることで徐々に深くなっていく。

広河原に架かる橋の下には、菊池渓谷に生息する2種類の魚のうちの1つであるヤマメが泳ぐ姿が見られることがある。また、橋の上から、特に上流方向には、カワノリの緑色の房が見えることがある。カワノリは古くから食用とされ、菊池渓谷のカワノリは特に美味しいとされていた。江戸時代には、熊本藩の大名が将軍へ地元のカワノリを献上していたという。現在、この植物がかなり珍しくなり、菊池渓谷はその数少ない生育地の一つである。